【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年4月20日(2006.4.20)

【公表番号】特表2003-521439(P2003-521439A)
【公表日】平成15年7月15日(2003.7.15)
【出願番号】特願2000-534230(P2000-534230)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｋ　38/00　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　48/00　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　 7/00　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　17/02　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　31/04　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　31/10　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　31/12　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　35/00　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　37/02　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　43/00　　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　 5/10　　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　 5/06　　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　15/09　　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　47/48　　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　48/00
Ａ６１Ｐ　 7/00
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｐ　31/04
Ａ６１Ｐ　31/10
Ａ６１Ｐ　31/12
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　37/02
Ａ６１Ｐ　43/00　　１１１
Ｃ１２Ｎ　 5/00　　Ｂ
Ｃ１２Ｎ　 5/00　　Ｅ
Ｃ１２Ｎ　15/00　　ＺＮＡＡ
Ａ６１Ｋ　47/48

【手続補正書】
【提出日】平成18年3月1日(2006.3.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
哺乳類の末梢単球の増殖を促進するための医薬の製造のための、単球成長因子ＣＤ１３７またはその機能的アナログの使用。
【請求項２】

単球および／またはそれから誘導される細胞および／またはそれらの幹細胞および／または前駆体を含んでいる細胞システムの障害に関連する状況、あるいはその生成および／またはコースがこの細胞システムの細胞の増殖によって処置可能である状況を処置するための医薬の製造のための、単球成長因子ＣＤ１３７またはその機能的アナログの使用。

【請求項３】

細胞システムの障害は末梢単球および／またはそれから誘導される細胞の減少または機能障害である請求項２による使用。

【請求項４】

不適切な免疫応答に関連する状況の処置のための請求項２による使用。

【請求項５】

ａ）化学療法または放射線療法に関連した造血系の損傷、

ｂ）創傷治癒傷害、

ｃ）腫瘍症、

ｄ）細菌、ウイルスまたはカビ感染、

ｅ）免疫系の遺伝性もしくは非遺伝性、後天性もしくは非後天性損傷または状況、

ｆ）免疫抑制剤での処置によって誘発された損傷、

から選ばれる請求項２ないし４のいずれかによる使用。

【請求項６】

生体内または生体外処置が実施される請求項１ないし５のいずれかによる使用。

【請求項７】

ＣＤ１３７またはその機能的アナログは、インターロイキン、リンフォカイン、モノカイン、インターフェロン、コロニー刺激因子および成長因子から選ばれた少なくとも一つのさらなる因子と組み合わせて使用される請求項１ないし６のいずれかによる使用。

【請求項８】

さらなる因子は白血球刺激因子である請求項７による使用。

【請求項９】

前記因子はＧ－ＣＳＦ，ＧＭ－ＣＳＦおよびＭ－ＣＳＦから選ばれる請求項８による使用。

【請求項１０】

ＣＤ１３７またはその機能的アナログは固定化された形で、または多量体凝集物として使用される請求項１ないし９のいずれかによる使用。

【請求項１１】

多量体ＣＤ１３７凝集物はＣＤ１３７タンパクまたはその機能的アナログ２ないし５分子を含む請求項１０による使用。

【請求項１２】

図１Ａによるアミノ酸＋１８ないし＋１８６に相当するヒトＣＤ１３７の細胞外セクション又は単球へ結合し得るその機能的アナログが使用される請求項１０または１１による使用。

【請求項１３】

哺乳類の血液からの末梢単球が栄養培地中でＣＤ１３７と接触させられ、単球カウントおよび／またはサイズが増加するまでインキュベートされることを含む末梢単球をインビトロで増殖する方法。

【請求項１４】

請求項２ないし５のいずれかに規定した障害の一つの処置のための遺伝子療法組成物の調製のための、ＣＤ１３７またはその機能的アナログをコードするヌクレオチド配列の使用。

【請求項１５】

ＣＤ１３７またはその機能的アナログをコードするヌクレオチド配列が発現可能な形で取り込まれている細胞基質を含む遺伝子療法組成物。